

No.24

2001年

(平成13年)

同窓会だより

— 発行 —

旭川厚生専門学院
同窓会

— 発行 者 —

同窓会会長 中尾 絹江

発行年月日 平成13年8月1日

岡山市祇園地先

TEL(086)275-0145

FAX(086)275-3283

二十一世紀の
同窓会に向けて

同窓会会長

中尾 絹江

一年に一度、紙面の冒頭で会員の皆様にお便りをするようになって、はや二十四号となりました。多少なりとも同窓生を繋ぐことができるよう念じながら、役員一同力を合わせ

創立三十周年を記念して

岡山支部長 西野 順子

例年になく暑い日が続いておりますが、同窓生の皆様、学院の先生方には、益々のご健勝の事と思います。母校学院は、十二月六日に創立三十周年を迎えることとなりました。心よりお慶び申し上げます。

早いものでですね。岡山支部会も、平成元年に発足後十三年が経過しました。これもひとえに、学生、同窓生、学院の先生方、事務局の方々のご協力があった、同窓会、支部会が支えられて参りました。

三十年前には、看護科、保育科だけでスタートした学院も現在では児童福祉科、介護福祉科、福祉研究科、福祉情報科、第一看護科、第二看護科と福祉、医療の先端を進む学院であることを、象徴しています。これからも益々のご発展をお祈り致します。

広島支部より

加藤 勝子

開校30周年おめでとうございます。思えば30年前の旭川荘は周りが田畑に囲まれ人參・キャベツ・大根が青々と実り、私達若い学生は生き生きと学んでいた光景がまざまざと思い出されます。

特に勉強は楽しく、一番前の机にかじりつき目をらんらんと輝かせていました。又、夕方よりバイトに走り、帰りにバイクで転倒して真っ黒になって帰ったこと、失恋して旭川の草むらで大泣きしたこと、学院祭では協力したり喧嘩したりしたこと、卒業式・謝恩会での喜びと悲しみ等、青春を肌で感じて育った学校生活は今でも私の脳裏に焼きついていて。

もう一つ、忘れられないことは立派な教師陣を選んでいただいた江草先生、今は亡き藤原先生に感謝の気持ちでいっぱいです。

き、盛大に催すことで二十世紀の幕を閉じ、二〇〇一年五月、関西支部会の開催で多くの会員の方にお会いし、新たな気持ちで再出発といったところです。

また、母校の創立三十周年記念行事の一環として、会員名簿を作成することとなりました。ついては住所の確認のため、年度幹事の方にもご協力頂き、また各会員の方で変更届けをお願い致します。

二十一世紀の幕が開けられたこの年、より飛躍できる同窓会をめざして、皆様のご健勝とご多幸を願っております。

私は卒業後、もう1年助産婦学校に学び、助産婦業務・看護婦業務を経て、今は介護福祉の学校で学生と共に看護について、介護について論じています。このように、広い範囲の考え方もできる人生を学ばせて戴いた旭川荘は私にとって大切な母校のひとつです。

学校も科や設備が増加している現在、これからは以上に発展できるように在校生の皆様・同窓生の皆様、力を合わせて1つの大きな輪から2つ・3つの輪に広がるよう頑張っていきたいと思います。

最後に、今後とも先生方の益々のご活躍とご健勝を、又学院の更なるご発展を祈願しお祝いの言葉にかえさせていただきます。



関西支部より

吉川千代子

こんにちわ、お久しぶりです。同窓生の皆様におかれましては、お元気に活動の事とお喜び申し上げます。

この度関西支部は、五月二十七日(日)に第五回支部総会及び懇親会をホテル・コンソルトにおいて開催しました。学院より松本好生学院長代理・出口隆一副学院長・福祉情報科及び看護科の先生(六名)・恩師の守屋芳子先生のご出席を賜りました。また中尾同窓会会長・西野岡山支部支部長・田中岡山支部支部長にも出席頂き、にぎやかに会を催す事ができました。

当初、はがきの返信状況も悪く、役員よりの呼びかけもでしたが、参加人数の伸びがみられず不安をいだいておりました所、学院の先生方の働きかけのおかげで第一看護科の卒業生の参加を例年より増員できました事、先生方には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

今回の支部総会において二年毎の支部会を三年毎に規約変更の提案があり、出席者の賛同を頂きましたので、次回の開催は平成十六年に決定致しました。また役員も新旧の交代を一部行ないましたのでお知らせ致します。(別紙参照)今後皆様のご協力の程宜しくお願い致します。今まで活動して頂きました役員の方々に感謝を申し上げます。

沢山の方のお力添えのおかげで支部総会も無事終了することが出来ました事、心より感謝申し上げますと共に、次回三年後の再会を楽しみにしております。

はじめまして



学院長 藤田 哲輔

今はなき國塩前学院長の後をうけまして学院長に就任いたしました。よろしくお願ひいたします。

同窓会の皆様方には旭川・厚生専門学院の教育推進につきまして、大きなお力添えをいただいております。また、心からお礼を申し上げます。また、本学院の卒業生の皆様方が全国各地で活躍されておられますことは、この上もない喜びとするところであります。学生連は、教職員一同、おきな励みになっております。今年度も六月になり、私も、岡山県内をはじめ、県外各地で平成十四年度の入試説明会をはじめしております。二十一世紀に入りまして少子化が進んでおりますが、

〃学院生と共に学んだこと〃



有森 広子

二十三年前、不安と緊張の初出勤、第一看護科一期生が一年生の夏でした。私にとっては見るもの聞くものすべてが新鮮でした。何より驚き感動したことは、学生の学問に対する意気込みでした。一点でも納得出来

ない事は教務室に質問に来る、制服の無い時代、ジャージ姿でバイト先から駆け込んで来る、現実をしっかりと受け止め学び働く姿でした。あれから月日が流れ多くの学生、先生方との出会いと別れの中で科も増

設され学院は大きくなっていききました。授業料を取り扱うことで様々な事情を背負う学生、何んの不自由もない学生連を知りました。学べる環境の中に居る中で、今しかないこの時をどうか大切に願う気持ちが、荷立ちつい厳しい言葉となったこともありました。働き、学んだ学生連の見事に卒業し資格を取得して、立派に就職していく姿に感動し何度涙したものでしょう。強く生きぬく力を学生の皆さんに学ばせていただきました。二十三年間をありがとうございました。

他校と違った特色を出しながら、学生募集に力を入れております。今年度は三〇名の学生が入学し、上級生共々、勉学に実習に意欲的に取り組み、目標達成に向けて努力しております。私たち教職員もしっかりとした指導やサポートができるよう、日々研鑽し、同窓生の皆様のご期待に応えられるよう、学生連共々、努力していく所存です。

また、本学院は岡山市西大寺に新しいキャンパスを計画し、開校に向けた準備を進めております。これは「国際福祉都市」を街づくりの指針とする岡山市との連携の中で進められているものです。外国からの留学生も受け入れて福祉専門職の養成を行い、国際貢献や国際交流も推進すること、二十一世紀型の国際福祉都市づくりの第一歩になることを期待しているところであります。

今後とも同窓生の皆様の本学院に對しましてのご支援、ご協力をお願いいたします。ごあいさつとさせていただきます。

学院だより

★入試情報

推薦入試 十月二十八日(日)
一般一次入試 一月二十七日(日)
一般二次入試 三月三日(日)
社会人入試 三月十八日(日)

★主な年間行事

☆キャンパスサービス(十月十七日(水))
☆就職式(十月十九日(金))
☆第29回学院祭(十一月中旬)
☆卒業演奏会(二月下旬)
☆卒業証書授与式(三月十五日(金))

同窓会員数

平成13年3月現在(平成13年3月卒業生)

同窓生総数 5,827名(291名)

保育科・児童福祉科	1,201名(45名)
福祉科・介護福祉科	883名(72名)
福祉科・研究科	106名(17名)
福祉科・情報科	209名(15名)
福祉科・看護科	1,739名(89名)
福祉科・第1看護科	1,688名(53名)

卒業生だより

児童福祉科 山本加奈子
二十七年期生

学院を卒業してから、三度目の夏を迎えようとしています。

先日の同窓会では、多数の参加がありありがとうございました。久々に皆に会え、変わらぬ児童福祉科二十七年期生の、独特の雰囲気に触れ、うれしかったです。忙しい中来てくれて、本当にありがとうございます。

私は現在市内の私立保育所で、保育士として働いています。今年は二歳児を担当していますが、昨年からのもちあがりという事で、愛着もあり、一人一人とてもかわいいです。

毎日変わらず元気な子どもを見てみると、こちらも元気をもらえる様な気がします。まだ悩む事も多く、子どもから元気や笑顔をもらえばかりですが、いつか子ども達に、優しさや幸せを与えられる様な保育士になりたいと思います。

二十七年期生の皆さん、まだ辛い事は沢山あると思いますが、共にがんばりましょう。そして次回の同窓会では、また変わらぬ雰囲気と笑顔で語り合おうね。



介護福祉科
十一期生 梅岡 三紀

私は、山口県下松市にある昨年六月新設の老健「ふくしの里」に介護福祉士として勤めています。暗中模索のスタートで多くの不安もありましたが、自らの手で築きあげていくことにやりがいを見出し出しています。実際の介護の現場で必要とされるのが、技術はもちろんですが、笑顔と挨拶そしてなにより介護観です。「在校生の皆さん。どうか自分らしい、ゆらぐことのない介護観を二年間の学院生活の中で作りあげて下さい。心より応援致します。」卒業生の皆さん、自分らしい、ゆらぐことのない介護観を深めていきましよう。又、お会いできる日を楽しみにしています。

介護福祉科
十一期生 安田 宜枝

学院を卒業してから2年目を迎えました。一期生のみなさん、学院の先生方、お元気でお過ごしでしょうか？

私は現在、昨年十月に万成に開設したばかりの特別養護老人ホーム（旭ヶ丘）に勤務しています。毎日業務に追われる日々ですが、利用者、そして職員の皆さんの笑顔を見ると、頑張ろう、という気持ちが湧いてきます。まだまだ未熟者ではありますが、利用者の笑顔を引きだせるような介護ができるよう、努力していきたいと思っています。

福祉情報科
八期生 神原 純子

病院の事務員として就職し、はや三年目となりました。

私は「医学資料室」に配属になり、学院で医療のことを学んでいたといえ、初めてのことはばかりで不安でいっぱいでした。一年目の夏から診療情報管理士の資格を取得するため、二年間の通信教育を受講しています。仕事が終わってからの勉強、疲れた体ではかなりきついと感じることがあります。

人事異動があり、三年目にして責任重大な立場となっていました。まだまだこれから学んでいこうと思っている矢先のことで、プレッシャーでいっぱいでした。しかし、職員の方々も親切で、本当にやりがいのある仕事です。プレッシャーをバネにして今、前進中です。

今後診療録の開示など、ますます重要視されます。その上で医学資料室は必要不可欠です。患者様と直接接することはありますが、医療の向上、患者様の信頼と安心を得るような、質の高い診療録になるよう頑張ります。

福祉研究科
六期生 大倉 有賀

学院を卒業し、介護福祉士として四月から働き始め三ヶ月が経ちました。県内唯一の盲老人ホーム施設という事で、初めは、「私に務まるだろうか」「利用者の方とうまくやっていけるだろうか」と不安でいっぱいでした。ですが、その心配も「おはようございます」という元気な利用者の方の挨拶で吹き飛んでしまいました。利用者の方の「この声は大倉さんじゃな」「ありがとう」という言葉で私は元気になり、「がんばらなくては」と思います。また、先輩の職員の方々も明るく、私が疑問に思った事やわからない事も丁寧に教えて下さり、仕事も毎日、少しずつ自信をつけながら働いています。これからはただ仕事を覚えるだけでなく、自分らしく働ければいいなと思います。時には、つらい時などもあるかもしれませんが、前向きに明るくがんばっていければよいと思います。みなさんもお体に気をつけて、共にがんばっていきましょう。

第一看護科
十七期生 貝原 有里

(旧姓 則巻)

皆さんお元気ですか。私は川崎医大に就職して五年間になります。色々な事がありました。一・二年目の頃は緊張と不安の日々でよく泣いてました。三年目では日勤でのリーダーもするようになり、また先輩への指導もする立場になりました。四年目では夜勤のインチャージャーの練習もしないといけないなくなり、責任の重さを肌で感じた時期でもありました。またこの年は私生活でも変化があり数年付き合った彼との結婚もありました。家庭と仕事の両立は口で言うほど簡単なものではありませんでした。

五年目は今私が歩んでいる年ですが、少しずつ夜勤のインチャージャーも実践しています。私の病棟はターミナル期や、吐血・下血の患者様も多く毎日が勉強の日々です。でも、大変ですが仕事も楽しくなり私生活でもだいたい心のゆとりも持てるようになり毎日充実した日々を送っています。これからも看護職を続けていき多くのことを学び成長していきたいと思っています。

また、皆さんと会って色々な話ができればいいなと思っています。

第二看護科
二十四期生 村上 光子

卒業後4年目を迎えている同期生の皆様、私は、当院のナース達がプリセプターとして頑張る、一生懸命勉強している姿を、見るにつけ皆様の顔が脳裏に浮かんできます。

52歳でクラスメートとして、過ごした2年間は、私の人生においてとても貴重な体験でした。臨床実習でも、看護に対してある程度の自信を持っていましたが、若いあなたの方の気づき、思いがひしひしと伝わり、看護はこれだよねというものではなく、もっともっと奥が深く、ものすごいエネルギーと情熱が必要であることを学ばせていただきました。



学園での最終講義で、増田先生の「アサーティブに生きる」という講演をお聞きし、25期生の皆様もきっとさわやかな自己主張ができ、Yes、Noが、ハッキリといえる看護婦として成長されていることと思います。病む人の気持ちを理解することはとても難しく大変です。でも、人と人とのコミュニケーションを大切に、思いやり、笑顔でやさしい看護婦として、いつまでも輝いて、現在働いておられる病院においてはかけがえのない人として活躍していただきたく思います。人生の先輩として応援しております。

最後になりましたが、卒業少し空白の期間ができ、今まで忙しくてできなかった医療、福祉、保健にチャレンジして、新しい気持ちで再出発をしております。ぜひ近くにお越しの節はお立ち寄りください。

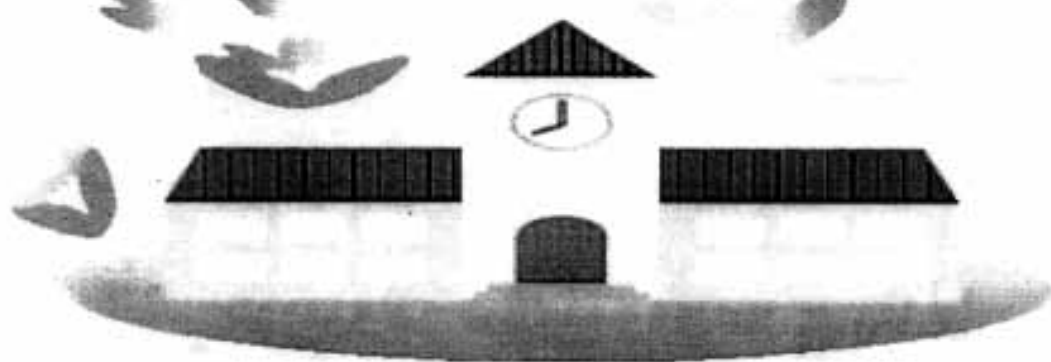
旭川荘厚生専門学院 創立30周年記念

この度、旭川荘厚生専門学院は、創立30周年を迎えます。
この機会に、同窓会名簿を新たに作成することになりました。
卒業後数年(?)たち、所在が不明の方も多数……。

同封のはがきに、皆さんの今の連絡先をご記入のうえ、必ずご返送ください。

名簿には名前・旧姓・郵便番号・現住所・電話番号を載せますが、どうしても載せたくない方は、同封のはがきにて、その旨を合わせてご一報ください。はがきは、9月14日までに投函していただきますようお願いいたします。

皆さんのご協力を心よりお待ちしております。



計報

國塩輝昭 前学院長が、平成十三年三月十七日に急逝されました。先生は四年間の本学院での勤務の中、最近の二年間を学院長として、その温かいお人柄で同窓会を支えてくださいました。

心より感謝の意を表し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

人事異動

☆退職された先生

今村 龍彦
藤原 芳朗
山脇 彰子
橋本 勇人
品川 佳美
山岡 佳美

☆新任の先生

藤田 哲輔
出口 隆一
藤田 晃
佐藤 和津江
池上 晶子
田淵 美野里
片山 恵理
山本 美穂子
川口 千恵子
松井 由美子
池本 安子
岡本 麻美子
足立 香織
草野 雄

第二詩集

「コスモスが揺れる日」

堤 史著

「あした天気になあれ」につづいて出版することができました。目を通して頂けますなら左記へご連絡下さい。

☎ 〇八六―二八四―三五八三
同窓会会長 中尾まで

編集後記

21世紀の最初の夏は、とても暑いでしたね。みなさま、いかがお過ごしでしょうか。早いもので本学院も30周年となりました。今年は、12月に記念式典がとり行われる予定です。

「同窓会だより」も今年で第24号となりましたが、せっかく発送をしても返送されることが多い状況です。同窓会役員としても心を痛めております。

今回、30周年記念として同窓会名簿を作成するにあたり、空欄のままでは発刊せざるを得ないことが考えられます。つきましては、同級生の動静について知っている情報をお寄せいただければ幸いに存じます。クラス幹事、同窓会役員または学院へご連絡くださいますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。

これから残暑がきびしくなってきました。これからの季節、ご自愛ください。

